

平成 28 年度
国内旅行業務取扱管理者試験問題

次の注意事項に従って解答してください。(全27ページ)

なお、本試験問題は、平成28年 6 月 1 日現在を基準としています。

〔注意事項〕

1. 答は、別の解答用紙（マークシート）に記入してください。
2. マークは濃度HBまたはBの鉛筆（シャープペンシルを含む。）を使用し、濃くきれいに塗りつぶしてください。
なお、訂正は消しゴムで、きれいに消し、消しくずを残さないでください。
3. 印刷が不鮮明なものや頁の欠落がありましたら取り替えますので、着席したまま手を挙げてください。
4. 試験終了後、この問題冊子は持ち帰ることができます。
5. 解答用紙（マークシート）は、白紙であっても必ず提出してください。
6. 解答用紙（マークシート）の記入に当たっては、次の例に従ってください。指示に従わない場合は、採点されません。

(1) 試験地、受験番号及び氏名欄の記入例

〔記入例〕 試験地 北海道 受験番号 00999番 全旅 太郎の場合

試験地		受験番号	フリガナ	ゼンリョ	タロウ
北海道	宮城県	埼玉県	東京都	愛知県	
大阪府	神戸	広島県	福岡県	沖縄県	

0	0	9	9	9
---	---	---	---	---

氏名	全旅 太郎
----	-------

(注意事項)

1. 「試験地」欄は該当箇所をマークしてください。「受験番号」欄は数字で記入してください。(記入見本参照)
2. マークは濃度HBまたはBの鉛筆（シャープペンシルを含む。）を使用し、濃くきれいに塗りつぶしてください。
3. この解答用紙を汚したり折り曲げたりしないでください。
4. 白紙であっても必ず提出してください。持ち帰ることはできません。

(2) 解答欄

次の例にならって、マークで解答してください。

良い例	悪い例				
<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

指示があるまで開いてはいけません。
問題の内容に関する質問にはお答えできません。

【配 点】

1 旅行業法及びこれに基づく命令

各 4 点×25問

2 旅行業約款、運送約款及び宿泊約款

各 4 点×25問

3 国内旅行実務

1.～4. , 5.(1)～(4) 各 2 点×24問

5.(5) , 6.(1) ①～③ 各 3 点× 4問

6.(2) , 7.～9. 各 4 点×10問

1 旅行業法及びこれに基づく命令

以下の各設問について、該当する答を、選択肢の中からそれぞれ1つ選びなさい。

(1) 次の記述から、法第1条「目的」に定められているもののみをすべて選んでいるものはどれか。

- a. 旅行業等を営む者についての登録制度の実施
- b. 旅行者の利便の増進
- c. 旅行業等を営む者の公正な競争の確保
- d. 旅行の安全の確保

ア. a, c イ. b, d ウ. a, b, d エ. b, c, d

(2) 法第2条「定義」に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- ア. 報酬を得て、旅行者のために旅行に関する相談に応ずる行為を行う事業は、旅行業に該当する。
- イ. 報酬を得て、観光バス事業者が、自ら所有する観光バスを使用し、いちご狩りを目的とする日帰りツアーを旅行者に販売する行為を行う事業は、旅行業に該当しない。
- ウ. 報酬を得て、手配を業とするランドオペレーターが、旅行者から依頼を受けて当該旅行者のために運送等サービスを手配する行為を行う事業は、旅行業に該当しない。
- エ. 報酬を得て、専ら運送サービスを提供する者のため、旅行者に対する運送サービスの提供について、代理して契約を締結する行為を行う事業は、旅行業に該当する。

(3) 旅行業等の登録に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

- ア. 第3種旅行業の登録の有効期間は、営業保証金を供託し、その旨を主たる営業所の所在地を管轄する都道府県知事に届け出た日から起算して5年である。
- イ. 地域限定旅行業の新規登録の申請をしようとする者は、新規登録申請書を観光庁長官に提出しなければならない。
- ウ. 業務の範囲が第1種旅行業務である旅行業の更新登録の申請をしようとする者は、更新登録申請書を観光庁長官に提出しなければならない。
- エ. 更新登録の申請をしようとする旅行者代理業者は、その主たる営業所の所在地を管轄する都道府県知事に有効期間の満了の日の2月前までに更新登録申請書を提出しなければならない。

(4) 登録業務範囲に関する次の記述のうち、正しいものはどれか（いずれも旅行業務取扱管理者の選任要件は満たしているものとする。）。

- ア. 第3種旅行者が実施できる企画旅行については、一の企画旅行ごとに一の自らの営業所の存する市町村（特別区を含む。）の区域、これに隣接する市町村の区域において実施されるものに限られる。
- イ. 第1種旅行者は、法第14条の2第1項の規定により、地域限定旅行者の実施する企画旅行（参加する旅行者の募集をすることにより実施するものに限る。）について、当該地域限定旅行者を代理して企画旅行契約を締結することができる。
- ウ. 第2種旅行者は、訪日外国人旅行者を対象とした本邦内の企画旅行を実施することはできない。
- エ. 地域限定旅行者は、一の企画旅行ごとに一の拠点区域内において実施される企画旅行は実施できるが、本邦外の旅行に関する相談に応じることはできない。

(5) 次の記述のうち、旅行業等の登録の拒否事由に該当しないものはどれか。

- ア. 旅行業又は旅行者代理業の登録を取り消され、その取消の日から5年を経過していない者
- イ. 法人であって、その役員のうち申請前5年以内に道路交通法に違反して罰金の刑に処せられた者があるもの
- ウ. 申請前5年以内に旅行業務に関し不正な行為をした者
- エ. 旅行者代理業を営もうとする者であって、その代理する旅行業を営む者が2以上であるもの

(6) 変更登録等に関する次の記述から、正しいもののみをすべて選んでいるものはどれか。

- a. 第3種旅行者は、主たる営業所の所在地が都道府県の区域を異にする所在地に変更があったときは、その日から30日以内に、変更後の主たる営業所の所在地を管轄する都道府県知事に登録事項変更届出書を提出しなければならない。
- b. 地域限定旅行者は、新たに旅行者代理業者に旅行業務を取り扱わせることになったときは、その主たる営業所の所在地を管轄する都道府県知事に登録事項変更届出書を提出しなければならない。
- c. 第2種旅行者は、本邦外の企画旅行（参加する旅行者の募集をすることにより実施するものに限る。）を実施できるように業務の範囲を変更しようとするときは、観光庁長官に登録事項変更届出書を提出しなければならない。
- d. 地域限定旅行業を営もうとする旅行者代理業者は、その主たる営業所の所在地を管轄する都道府県知事に業務の範囲の変更登録申請書を提出しなければならない。

ア. a, b イ. c, d ウ. a, b, c エ. b, c, d

(7) 営業保証金に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

- ア. 第2種旅行業の新規登録を受けた者が供託すべき営業保証金の額は、登録の申請時に添付した書類に記載した旅行業務に関する旅行者との年間取引見込額が5000万円未満の場合は、700万円である。
- イ. 旅行業者が供託すべき営業保証金の額は、当該旅行業者の前事業年度における旅行業務に関する旅行者との取引の額に基づき算定し、これには当該旅行業者に所属する旅行業者代理業者が取り扱った旅行者との旅行業務に関する取引の額を含めることを要しない。
- ウ. 旅行業者は、営業保証金の供託をしたときは、直ちに、その事業を開始することができる。
- エ. 国債証券については、その額面金額をもって、営業保証金に充てることができる。

(8) 営業保証金の還付に関する次の記述から、旅行業者が供託した営業保証金について、債権の弁済を受ける権利を有する者に該当するもののみをすべて選んでいるものはどれか。

- a. 旅行業者と旅行業務に関し取引をした旅行者
- b. 旅行業者を所属旅行業者とする旅行業者代理業者と旅行業務に関し取引をした旅行者
- c. 旅行業者が旅行者に提供するために必要と見込まれる運送サービスの提供に係る契約を締結した運送事業者
- d. 旅行業者が合併により設立された法人であり、旅行業者であった消滅会社より営業保証金についての権利を承継し、その旨を登録行政庁に届け出た場合における当該消滅会社と旅行業務に関し取引をした旅行者

ア. a, c イ. a, b, d ウ. b, c, d エ. a, b, c, d

(9) 旅行業務取扱管理者の選任に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

- ア. 第2種旅行業者及び第3種旅行業者については、その営業所において本邦外の旅行について旅行業務を取り扱う場合であっても、国内旅行業務取扱管理者試験に合格した者のみを旅行業務取扱管理者として選任すればよい。
- イ. 旅行業者等は、その営業所において旅行業務取扱管理者を複数選任している場合にあっては、そのうちの1人については、他の営業所の旅行業務取扱管理者として兼任させることができる。
- ウ. 旅行業者等は、その営業所の旅行業務取扱管理者として選任した者のすべてが欠けるに至ったときは、新たに旅行業務取扱管理者を選任するまでの間でも、その営業所において、他の旅行業者が実施する企画旅行（参加する旅行者の募集をすることにより実施するものに限る。）であれば、当該他の旅行業者を代理して旅行者と契約を締結することができる。
- エ. 旅行業者等は、旅行業務に従事した経験が1年未満の者であっても、旅行業務取扱管理者試験に合格し、法第11条の2第5項の規定に適合する者で、かつ、他の営業所の旅行業務取扱管理者に選任されていない者であれば、営業所の旅行業務取扱管理者として選任することができる。

(10) 次の記述のうち、旅行業務取扱管理者の職務として、定められていないものはどれか。

- ア. 法第12条の5の2の規定による旅行業務取扱管理者の証明書の提示に関する事項
- イ. 法第12条の7及び法第12条の8の規定による広告に関する事項
- ウ. 契約締結の年月日、契約の相手方その他の旅行者又は旅行に関するサービスを提供する者と締結した契約の内容に係る重要な事項についての明確な記録又は関係書類の保管に関する事項
- エ. 施行規則第10条第1号から第9号に掲げるもののほか、取引の公正、旅行の安全及び旅行者の利便を確保するため必要な事項として観光庁長官が定める事項

(11) 旅行者から収受する旅行業務の取扱いの料金（企画旅行に係るものを除く。）に関する次の記述から、誤っているもののみをすべて選んでいるものはどれか。

- a. 旅行者は、事業の開始後速やかに、旅行業務の取扱いの料金を定め、これをその営業所において旅行者に見やすいように掲示又は旅行者が閲覧することができるように備え置かなければならない。
- b. 旅行業務の取扱いの料金は、契約の種類及び内容に応じて定率、定額その他の方法により定められ、旅行者にとって明確でなければならない。
- c. 旅行者は、旅行業務の取扱いの料金を変更したときは、その日から7日以内に、登録行政庁に変更届出書を提出しなければならない。
- d. 旅行者代理業者は、その営業所において、所属旅行者が定めた旅行業務の取扱いの料金を掲示することを要しない。

ア. a, b イ. b, c ウ. c, d エ. a, c, d

(12) 旅行業約款に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

- ア. 旅行者等は、法第14条の2第1項又は第2項の規定により他の旅行者を代理して企画旅行契約を締結することができる者にあつては、当該他の旅行者の旅行業約款をその営業所において、旅行者に見やすいように掲示し、又は旅行者が閲覧することができるように備え置かなければならない。
- イ. 旅行業協会の保証社員である旅行者は、その旅行業約款に記載されている弁済業務保証金からの弁済限度額が変更となるときは、登録行政庁の認可を受けなければならない。
- ウ. 旅行者は、現に定めている旅行業約款を観光庁長官及び消費者庁長官が定めて公示した標準旅行業約款と同一のものに変更しようとするときは、登録行政庁の認可を受けなければならない。
- エ. 旅行業務の取扱いの料金その他の旅行者との取引に係る金銭の収受に関する事項は、旅行業約款の記載事項として定められていない。

(13) 取引条件の説明に関する次の記述のうち、旅行業者等が旅行者と企画旅行契約を締結しようとする場合の説明事項として、定められていないものはどれか。

- ア. 旅程管理業務を行う者が同行しない場合にあつては、旅行地における企画者との連絡方法
- イ. 旅行者が旅行業者等に支払うべき対価及びその收受の方法
- ウ. 旅行中の損害の補償に関する事項
- エ. 契約の申込方法及び契約の成立に関する事項

(14) 取引条件の説明に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

- ア. 旅行業者等は、旅行者に対し、取引条件の説明をするときに交付する書面に代えて、当該書面に記載すべき事項を国土交通省令・内閣府令で定める情報通信の技術を利用する方法により提供するときは、旅行者の承諾を得ることを要しない。
- イ. 旅行業者は、旅行に関する相談に応ずる行為に係る旅行業務について契約を締結しようとする場合にあつては、旅行者に対し、契約の変更及び解除に関する事項について説明しなければならない。
- ウ. 旅行業者等は、旅行者に対し取引条件の説明をするときは、対価と引換えに法第12条の5に規定するサービスの提供を受ける権利を表示した書面を交付する場合にあつては、国土交通省令・内閣府令で定める事項を記載した書面を交付することを要しない。
- エ. 旅行業者等は、手配旅行契約に付随して旅券の受給のための行政庁等に対する手続の代行サービスを提供する行為に係る旅行業務について契約を締結しようとするときは、旅行者に対し、国土交通省令・内閣府令で定める事項を記載した書面の交付をすれば、取引条件の説明を要しない。

(15) 次の記述のうち、旅行業者等が旅行者と企画旅行契約を締結したときに交付する書面の記載事項として、定められていないものはどれか。

- ア. 契約の申込方法及び契約の成立に関する事項
- イ. 旅行の目的地及び出発日その他の日程
- ウ. 旅行者が旅行業者等に支払うべき対価及びその收受の方法
- エ. 責任及び免責に関する事項

(16) 外務員に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- ア. 外務員とは、勧誘員、販売員、外交員その他いかなる名称を有する者であるかを問わず、旅行業者等の役員又は使用人のうち、その営業所以外の場所でその旅行業者等のために旅行業務について取引を行う者をいう。
- イ. 外務員は、その業務を行うときは、旅行者からの請求の有無にかかわらず、外務員の証明書を提示しなければならない。
- ウ. 旅行業者等は、当該旅行業者等が選任した旅行業務取扱管理者に限り、旅行業務取扱管理者の証明書の提示をもって、その者を営業所以外の場所で外務員としての業務に従事させることができる。
- エ. 外務員は、旅行者が悪意であった場合を除き、その所属する旅行業者等に代わって、旅行者との旅行業務に関する取引についての一切の裁判外の行為を行う権限を有するものとみなす。

(17) 次の記述から、企画旅行に参加する旅行者を募集するための広告の表示事項として、定められているもののみをすべて選んでいるものはどれか。

- a. 旅行の目的地及び日程に関する事項
- b. 責任及び免責に関する事項
- c. 旅程管理業務を行う者の同行の有無
- d. 契約の変更及び解除に関する事項

ア. a, b イ. a, c ウ. b, d エ. a, c, d

(18) 次の記述から、誇大表示をしてはならない事項として、定められているもののみをすべて選んでいるものはどれか。

- a. 旅行者等の業務の範囲、資力又は信用に関する事項
- b. 旅行者に対する損害の補償に関する事項
- c. 旅行地における旅行者の安全の確保に関する事項
- d. 感染症の発生の状況その他の旅行地における衛生に関する事項

ア. a, b イ. a, c, d ウ. b, c, d エ. a, b, c, d

(19) 標識に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

- ア. 旅行者等は、主たる営業所に国土交通省令で定める様式の標識を掲示すれば、その他の営業所においては、標識の掲示を要しない。
- イ. 旅行者代理業者は、その営業所において、所属旅行者と同一様式の標識を、公衆に見やすいように掲示しなければならない。
- ウ. 標識の受託取扱企画旅行の欄は、取り扱っている企画旅行の企画者が明確となるよう記載する。
- エ. 標識には、旅行者等が法人である場合にあっては、その代表者の氏名及び選任した旅行業務取扱管理者の氏名を記載しなければならない。

(20) 旅程管理業務を行う者に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

- ア. 企画旅行に参加する旅行者に同行して旅程管理業務を行う者として旅行者に選任される者が複数の場合は、当該同行する者のすべてが旅程管理業務を行う主任の者の資格として定められている要件を満たす者でなければならない。
- イ. 旅行者によって選任された旅程管理業務を行う主任の者の指導による旅程管理業務に相当する実務の研修を受けた経験は、当該研修を受けた地域を目的地とする旅行に係る旅程管理業務に従事した経験とみなされる。
- ウ. 国土交通省令で定める旅程管理業務に関する実務の経験とは、登録研修機関が実施する旅程管理研修の課程を修了した日の前後5年以内に3回以上の旅程管理業務に従事した経験をいう。
- エ. 旅行業法の規定に違反して罰金の刑に処せられてから3年を経過した者は、旅程管理業務を行う主任の者となることができる。

(21) 禁止行為等に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- ア. 旅行者等は、旅行者から収受する旅行業務の取扱いの料金について、旅行者から事前に承諾を得たとしても営業所において掲示した料金を超えて料金を収受する行為をしてはならない。
- イ. 旅行者等は、旅行業務に関し取引をする者に対し、その取引に関する重要な事項について、故意に事実を告げず、又は不実のことを告げる行為をしてはならない。
- ウ. 旅行者等は、専ら企画旅行の実施のために提供される運送サービスについて、当該運送サービスを提供する者に対し、輸送の安全の確保を不当に障害する行為をしてはならない。
- エ. 旅行者等は、営業の貸渡しの方法であれば、旅行業又は旅行者代理業を他人にその名において経営させることができる。

(22) 旅行者代理業者の旅行業務等に関する次の記述から、正しいもののみをすべて選んでいるものはどれか。

- a. 旅行者代理業者は、旅行業務に関し取引をしようとするときは、所属旅行者の登録番号及び旅行者代理業者である旨を取引の相手方に明示しなければならない。
- b. 旅行者代理業者は、その行う営業が旅行業であると誤認させ、又は所属旅行者を誤認させるような表示、広告その他の行為をしてはならない。
- c. 旅行者代理業者は、受託旅行者代理業者として委託旅行者を代理して企画旅行契約（参加する旅行者の募集をすることにより実施するものに限る。）を締結する場合を除き、所属旅行者以外の旅行者のために旅行業務を取り扱ってはならない。
- d. 所属旅行者は、旅行者代理業者が旅行業務につき旅行者に加えた損害を賠償する責任を負うが、当該所属旅行者がその旅行者代理業者への委託につき相当の注意さえすれば、その責任を免れる。

ア. a, b イ. b, c ウ. c, d エ. a, b, d

(23) 登録の取消し等に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- ア. 登録行政庁は、登録当時、旅行者等が営業所ごとに法第11条の2の規定による旅行業務取扱管理者を確実に選任すると認められない者に該当していたことが判明したときは、登録を取り消すことができる。
- イ. 登録行政庁は、旅行者が不正の手段により変更登録を受けたときは、登録を取り消すことができる。
- ウ. 登録行政庁は、旅行者等が登録を受けてから14日以内に事業を開始しなかったときは、登録を取り消すことができる。
- エ. 登録行政庁は、旅行者等が法人であって、登録当時、その役員のうち登録の申請前5年以内に旅行業務に関し不正な行為をした者があるものに該当していたことが判明したときは、登録を取り消すことができる。

(24) 次の記述から、旅行業協会が適正かつ確実に実施しなければならない業務として、定められているもののみをすべて選んでいるものはどれか。

- a. 旅行業務に関し社員である旅行者又は当該旅行者を所属旅行者とする旅行者代理業者と取引をした旅行者に対し、その取引によって生じた債権に関し弁済をする業務
- b. 旅行業務に関する取引の公正の確保又は旅行業及び旅行者代理業の健全な発達を図るための調査、研究及び広報
- c. 旅行に関するサービスを提供する者に対する研修
- d. 旅行業務の適切な運営を確保するための旅行者等に対する会計監査

ア. a, b イ. c, d ウ. a, b, d エ. a, b, c, d

(25) 弁済業務保証金制度に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- ア. 保証社員は、毎事業年度終了後においてその弁済業務保証金分担金の額が増加することとなるときはその終了の日の翌日から100日以内に、その増加することとなる額の弁済業務保証金分担金を旅行業協会に納付しなければならない。
- イ. 保証社員は、変更登録を受けた場合においてその弁済業務保証金分担金の額が増加することとなるときは変更登録を受けた日から14日以内に、その増加することとなる額の弁済業務保証金分担金を旅行業協会に納付しなければならない。
- ウ. 旅行業協会に加入しようとする旅行者は、加入の日から7日以内に弁済業務保証金に充てるため、弁済業務規約で定める額の弁済業務保証金分担金を旅行業協会に納付しなければならない。
- エ. 保証社員又は保証社員であった者は、弁済業務保証金の還付があったときは、旅行業協会から当該還付額に相当する額の還付充当金を納付すべき通知を受けた日から7日以内に、その通知された額の還付充当金を旅行業協会に納付しなければならない。

2 旅行業約款、運送約款及び宿泊約款

1. 標準旅行業約款に関する以下の各設問について、該当する答を、選択肢の中からそれぞれ1つ選びなさい。

(1) 募集型企画旅行契約の部「適用範囲」「用語の定義」「旅行契約の内容」「手配代行者」に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- ア. 旅行業者は、契約において、旅行者が旅行業者の定める旅行日程に従って、運送・宿泊機関等の提供する運送、宿泊その他の旅行に関するサービスの提供を受けることができるように、手配し、旅程を管理することを引き受ける。
- イ. 旅行業者は、契約の履行に当たって、手配の全部又は一部を本邦内又は本邦外の他の旅行業者、手配を業として行う者その他の補助者に代行させることがある。
- ウ. 旅行業者が約款に定めのない事項について、法令に反せず、かつ、旅行者の不利にならない範囲で口頭により特約を結んだときは、その特約が約款に優先して適用される。
- エ. 「カード利用日」とは、旅行者又は旅行業者が契約に基づく旅行代金等の支払又は払戻債務を履行すべき日をいう。

(2) 募集型企画旅行契約の部「契約の申込み」「電話等による予約」に関する次の記述から、正しいもののみをすべて選んでいるものはどれか。

- a. 旅行者が、旅行の参加に際し、特別な配慮を必要とする旨を契約の申込時に申し出たときは、旅行業者は可能な範囲内でこれに応じ、この申出に基づき、旅行業者が旅行者のために講じた特別な措置に要する費用は、旅行者の負担とする。
- b. 旅行業者は、電話、郵便、ファクシミリその他の通信手段による契約の予約を受け付ける。この場合、予約の時点では契約は成立していない。
- c. 旅行業者が電話による契約の予約を受け付け、その予約の承諾の旨を通知した場合において、旅行者が所定の期間内に申込金を提出しない場合又は会員番号その他の事項を通知しない場合は、旅行業者は、予約がなかったものとして取り扱う。

- ア. a, b イ. a, c ウ. b, c エ. a, b, c

(3) 募集型企画旅行契約の部「契約の成立時期」「契約書面の交付」「旅行代金」に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- ア. 契約は、通信契約である場合を除き、旅行業者が契約の締結を承諾し、所定の申込書を受理した時に成立するものとする。
- イ. 通信契約は、旅行業者が契約の締結を承諾する旨の通知を發した時に成立するものとする。ただし、当該契約において電子承諾通知を發する場合は、当該通知が旅行者に到達した時に成立するものとする。
- ウ. 旅行業者は、契約の成立後速やかに、旅行者に、旅行日程、旅行サービスの内容、旅行代金その他の旅行条件及び旅行業者の責任に関する事項を記載した書面を交付する。
- エ. 通信契約を締結したときは、旅行業者は、提携会社のカードにより所定の伝票への旅行者の署名なくして契約書面に記載する金額の旅行代金の支払いを受ける。

(4) 募集型企画旅行契約の部「契約書面」「確定書面」に関する次の記述から、正しいもののみをすべて選んでいるものはどれか。

- a. 旅行業者は、旅行開始日の前日から起算してさかのぼって5日目に当たる日に旅行者から契約の申込みがなされた場合は、旅行開始日の前日までの契約書面に定める日までに、確定書面を交付しなければならない。
- b. 旅行業者は、契約書面において、確定された旅行日程、運送若しくは宿泊機関の名称を記載できない場合には、当該契約書面において利用予定の宿泊機関及び表示上重要な運送機関の名称を限定して列挙する。
- c. 旅行業者が、確定書面を交付した場合には、旅行業者が手配し旅程を管理する義務を負う旅行サービスの範囲は、当該確定書面に記載するところに特定される。

ア. a, b イ. a, c ウ. b, c エ. a, b, c

(5) 募集型企画旅行契約の部「契約内容の変更」「旅行代金の額の変更」に関する次の記述から、正しいもののみをすべて選んでいるものはどれか。

- a. 旅行業者は、天災地変その他の旅行業者の関与し得ない事由が生じた場合において、旅行の安全かつ円滑な実施を図るためやむを得ないときは、旅行者にあらかじめ速やかに当該事由が関与し得ないものである理由及び当該事由との因果関係を説明して、旅行日程、旅行サービスの内容その他の契約の内容を変更することがある。ただし、緊急の場合において、やむを得ないときは、変更後に説明する。
- b. A市からB市への移動に際し、契約書面に記載した航空便の欠航によりB市に移動できず、やむを得ずA市に宿泊することになった場合において、それに伴って旅行の実施に要する費用の増加が生じたときは、旅行業者は、当該変更に係る理由を旅行者に説明し、その増加する費用の範囲内において旅行代金の額を変更することがある。
- c. 旅行業者は、旅行を実施するに当たり、利用する運送若しくは宿泊機関について適用を受ける運賃・料金が、著しい経済情勢の変化等により、旅行の募集の際に明示した時点の運賃・料金に比べて、通常想定される程度を大幅に超えて増額又は減額される場合においては、その増額又は減額される金額の範囲内で旅行代金の額を増加し、又は減少することができる。

ア. a, b イ. a, c ウ. b, c エ. a, b, c

(6) 募集型企画旅行契約の部「旅行者の解除権」に関する次の記述のうち、旅行者が旅行開始前に契約を解除するに当たって取消料の支払いを要するものはどれか（いずれも取消料の支払いを要する期間内の解除とする。）。

- ア. 旅行の目的地において地震が発生し、旅行の安全かつ円滑な実施が不可能となったとき。
- イ. 旅行者が集合場所に向かう運送機関で遅延が発生し、確定書面に記載された乗車予定列車の出発時刻に間に合わないことが判明したため、集合場所に向かう運送機関において遅延証明書の交付を受け、旅行に参加しない旨を旅行者に申し出たとき。
- ウ. 旅行者によって、利用ホテルが確定書面に記載のあった「Aホテル」から「Bホテル」に変更となったとき。
- エ. 旅行者が旅行者に対し、契約書面に定めた期日までに、確定書面を交付しなかったとき。

(7) 募集型企画旅行契約の部「旅行者の解除権等－旅行開始前の解除」に関して、旅行者の数が契約書面に記載した最少催行人員に達しなかったことを理由に、旅行者が契約の解除をしようとするとき、旅行を中止する旨を旅行者に通知する期限の組合せのうち、正しいものはどれか。

・契約書面に記載の旅行開始日は、①②ともに8月31日とする。

- ① 日帰りの国内旅行の場合
- ② 2泊3日の国内旅行の場合

	①の場合の期限	②の場合の期限
ア.	8月27日	8月17日
イ.	8月28日	8月18日
ウ.	8月29日	8月19日
エ.	8月30日	8月20日

(8) 募集型企画旅行契約の部「旅行者の解除権－旅行開始後の解除」に関する次の記述から、正しいもののみをすべて選んでいるものはどれか（いずれも解除に係る旅行者への理由説明は行うものとする。）。

- a. 旅行者が病気、必要な介助者の不在その他の事由により旅行の継続に耐えられないとき、旅行者は契約の一部を解除することがある。
- b. 旅行者が契約を解除したときは、旅行者と旅行者との間の契約関係は、将来に向かってのみ消滅する。
- c. 天災地変その他の旅行者の関与し得ない事由が生じた場合であって、旅行の継続が不可能となったとき、旅行者が契約の一部を解除することがある。この場合において、旅行代金のうち旅行者がいまだその提供を受けていない旅行サービスに対する取消料、違約料その他の既に支払い、又はこれから支払わなければならない費用に係る金額は、旅行者の負担とする。
- d. 旅行者が旅行を安全かつ円滑に実施するための添乗員その他の者による旅行者の指示への違背、これらの者又は同行する他の旅行者に対する暴行又は脅迫等により団体行動の規律を乱し、当該旅行の安全かつ円滑な実施を妨げるため、旅行者が契約の一部を解除したとき、旅行者は、旅行者に対し旅行代金のうち旅行者がいまだその提供を受けていない旅行サービスに係る部分に係る金額を払い戻すことを要しない。

- ア. a, b イ. c, d ウ. a, b, c エ. a, b, c, d

(9) 募集型企画旅行契約の部「旅行代金の払戻し」に関する次の記述から、誤っているもののみをすべて選んでいるものはどれか（選択肢 a. b. は、通信契約でないものとする。）。

- a. 宿泊機関の利用人員により旅行代金が異なる旨を契約書面に記載した場合において、旅行開始前に旅行者の都合で利用人員が変更され、旅行代金が減額になったときは、旅行業者は、当該減額した金額を利用人員の変更の申し出があった日の翌日から起算して7日以内に払い戻す。
- b. 旅行中における大地震の発生で、契約書面に記載のあった旅行終了日を前日に繰り上げ旅行日程を変更する措置を講じたため、旅行業者が契約の一部を解除した場合において、旅行代金が減額になったときは、旅行業者は、変更された旅行終了日の翌日から起算して30日以内に当該減額した金額を払い戻す。
- c. 旅行業者は、通信契約が解除された場合において、旅行者に対して払い戻すべき金額が生じたときは、提携するクレジットカード会社のカード会員規約に従って、旅行者に対し当該金額を払い戻す。

ア. a, b イ. a, c ウ. b, c エ. a, b, c

(10) 募集型企画旅行契約の部「旅程管理」「旅行業者の指示」「保護措置」に関する次の記述から、正しいもののみをすべて選んでいるものはどれか。

- a. 旅行者は、旅行開始後旅行終了までの間において、団体で行動するときは、旅行を安全かつ円滑に実施するための旅行業者の指示に従わなければならない。
- b. 旅行業者は、旅行中の旅行者が、疾病、傷害等により保護を要する状態にあると認めるときは、必要な措置を講ずることがある。この場合において、これが旅行業者の責に帰すべき事由によるものでないときは、当該措置に要した費用は旅行者の負担となる。
- c. 旅行業者は、他の旅行業者に旅程管理業務を委託する旨を確定書面に明示した場合は、旅程を管理する責任を負わない。

ア. a, b イ. a, c ウ. b, c エ. a, b, c

(11) 募集型企画旅行契約の部「旅行業者の責任」「旅行者の責任」に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

- ア. 旅行業者の過失により旅行者の手荷物について生じた損害については、損害発生の翌日から起算して、国内旅行にあっては14日以内に旅行者から旅行業者に対して通知があったときに限り、旅行業者は、旅行者1名につき10万円を限度（旅行業者に故意又は重大な過失がある場合を除く。）として賠償する。
- イ. 旅行者が旅行参加中に旅行業者の過失により身体に損害を被ったときは、その損害発生の翌日から起算して1年以内に旅行業者に対してその旨の通知があったときに限り、旅行業者は、その損害を賠償する責に任ずる。
- ウ. 旅行者は、旅行開始後において、万が一契約書面と異なる旅行サービスが提供されたと認識したときは、旅行終了後速やかにその旨を旅行業者に申し出なければならない。
- エ. 旅行者は、契約を締結するに際しては、旅行業者から提供された情報を活用し、旅行者の権利義務その他の契約の内容について理解するよう努めなければならない。

(12) 受注型企画旅行契約の部に関する次の記述から、正しいもののみをすべて選んでいるものはどれか。

- a. 「受注型企画旅行」とは、旅行業者が、旅行者からの依頼により、旅行の目的地及び日程、旅行者が提供を受けることができる運送又は宿泊のサービスの内容並びに旅行者が旅行業者に支払うべき旅行代金の額を定めた旅行に関する計画を作成し、これにより実施する旅行をいう。
- b. 旅行者は、旅行業者に対し、旅行日程、旅行サービスの内容その他の契約の内容を変更するよう求めることができる。この場合において、旅行業者は、可能な限り旅行者の求めに応じる。
- c. 旅行業者が旅行代金の内訳として企画料金の金額を明示した企画書面を旅行者に交付すれば、旅行者から当該書面に記載された企画の内容に関して、契約の申込みがない場合であっても、旅行業者は旅行者に当該企画料金を請求することができる。

ア. a, b イ. a, c ウ. b, c エ. a, b, c

(13) 受注型企画旅行契約の部に関する次の記述から、正しいもののみをすべて選んでいるものはどれか。

- a. 旅行業者は、契約責任者との間で契約を締結する場合において、申込金の支払いを受けることなく契約を締結する旨を記載した書面を交付することにより契約を成立させることがある。
- b. 旅行業者と契約を締結した旅行者は、旅行業者の承諾を得て、契約上の地位を第三者に譲り渡すことができる。
- c. 旅行業者は、企画書面において企画料金の金額を明示した場合は、当該金額を契約書面に明示する。

ア. a, b イ. a, c ウ. b, c エ. a, b, c

(14) 募集型企画旅行契約の部及び受注型企画旅行契約の部「旅程保証」に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか（いずれも変更補償金の額は、約款に定める支払いが必要な最低額を上回っているものとする。）。

- ア. 旅行業者が、変更補償金の支払いが必要となる契約内容の重要な変更が1件生じたことを旅行開始日に旅行者に通知した場合、旅行業者は、旅行代金に約款に定める「旅行開始後の1件あたりの率（％）」を乗じた額以上の変更補償金を旅行者に対して支払う。
- イ. 旅行業者は、変更補償金を支払うべき契約内容の重要な変更が生じた場合は、当該変更を旅行者に通知した日から起算して30日以内に変更補償金を支払う。
- ウ. 運送・宿泊機関等が当該旅行サービスの提供を行っているにもかかわらず、運送・宿泊機関等の座席、部屋その他の諸設備の不足が発生したことによって契約内容の重要な変更が生じた場合は、旅行業者は、旅行者に対して変更補償金を支払う。
- エ. 旅行業者が変更補償金を支払った後に、当該変更について旅行業者に責任が発生することが明らかになった場合には、旅行者は当該変更に係る変更補償金を旅行業者に返還しなければならない。この場合、旅行業者は、支払うべき損害賠償金の額と旅行者が返還すべき変更補償金の額とを相殺した残額を支払う。

(15) 募集型企画旅行契約の部及び受注型企画旅行契約の部「旅程保証」に関する次の記述のうち、変更補償金の支払いを要するものはどれか（いずれも変更補償金の額は、約款に定める支払いが必要な最低額を上回っているものとする。）。

- ア. 確定書面には、「第1日目：A美術館を見学」と記載されていたが、目的地に向かう列車に大幅な遅延が発生したため、「第2日目」に変更となったとき。
- イ. 確定書面には、「羽田発那覇 直行便」と記載されていたが、航空会社の過剰予約受付により、同じ航空会社の羽田発伊丹乗り継ぎで那覇着となったとき。
- ウ. 契約書面には、東北新幹線「グランクラスを利用」と記載されていたが、乗車する列車が車両故障で運休となったため、後発の新幹線の「普通車指定席」に変更となったとき。
- エ. 確定書面には、昼食場所が「最近テレビで紹介された人気レストランA」と記載されていたが、レストランAの過剰予約受付により、「有名ガイドブックで紹介された高級レストランB」に変更となったとき。

(16) 募集型企画旅行契約の部及び受注型企画旅行契約の部「特別補償」「特別補償規程」に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- ア. 旅行業者は、旅行業者の責任が生ずるか否かを問わず、特別補償規程で定めるところにより、旅行者が企画旅行参加中にその生命、身体又は手荷物の上に被った一定の損害について、あらかじめ定める額の補償金及び見舞金を支払う。
- イ. 旅行業者が損害賠償責任を負うときは、その責任に基づいて支払うべき損害賠償金の額の限度において、旅行業者が支払うべき特別補償規程に基づく補償金は、当該損害賠償金とみなされる。
- ウ. 旅行業者は、旅行者1名について入院見舞金と死亡補償金を重ねて支払うべき場合には、死亡補償金の金額から入院見舞金の金額を控除した残額をその法定相続人に支払う。
- エ. 旅行業者が、補償金等を支払った場合でも、旅行者又はその法定相続人が旅行者の被った傷害について第三者に対して有する損害賠償請求権は、旅行業者に移転しない。

(17) 募集型企画旅行契約の部及び受注型企画旅行契約の部「特別補償規程」の「携帯品損害補償」に関する次の記述のうち、携帯品損害補償金の支払い対象となるものはどれか（いずれも企画旅行参加中に被った損害とする。）。

- ア. 盗難にあった財布の中に入れてあったクレジットカード
- イ. 旅行者がレストランに置き忘れたサングラス
- ウ. 使用には支障がない程度の擦り傷がついてしまった有名ブランドのスーツケース
- エ. 旅行者が闘争行為に自らの意志によらず巻き込まれたことに起因して、壊れてしまった旅行者の腕時計

(18) 手配旅行契約の部に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- ア. 旅行業者は、契約責任者との間で契約を締結する場合において、申込金の支払いを受けることなく契約の締結の承諾により契約を成立させる場合には、その旨を記載した書面を交付するものとし、契約は、当該書面を交付した時に成立するものとする。
- イ. 旅行業者は、運送サービス又は宿泊サービスの手配のみを目的とする契約であって、旅行代金と引換えに当該旅行サービスの提供を受ける権利を表示した書面を交付するものについては、口頭による申込みを受け付けることがある。
- ウ. 「旅行代金」とは、旅行業者が旅行サービスを手配するために、運賃、宿泊料その他の運送・宿泊機関等に対して支払う費用のみをいう。
- エ. 旅行業者は、契約責任者からの求めにより、団体・グループに添乗員を同行させ、添乗サービスを提供することがある。

(19) 手配旅行契約の部に関する次の記述から、正しいもののみをすべて選んでいるものはどれか。

- a. 旅行者は、旅行業者の責に帰すべき事由により旅行サービスの手配が不可能になったときは、契約を解除することができる。
- b. 旅行者が、手配の取り消しに要する費用を負担することなく契約を解除することができるのは、旅行開始前において、運送機関の運賃・料金の改訂により旅行代金が増額された場合に限られる。
- c. 旅行業者が善良な管理者の注意をもって旅行サービスの手配をしたときは、満員、休業、条件不相当等の事由により、運送・宿泊機関等との間で旅行サービスの提供をする契約を締結できなかった場合であっても、旅行業者がその義務を果たしたときは、旅行者は、旅行業者に対し、所定の旅行業務取扱料金を支払わなければならない。

ア. a, b イ. a, c ウ. b, c エ. a, b, c

(20) 旅行相談契約の部に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- ア. 契約において、約款に定めのない事項については、法令又は一般に確立された慣習による。
- イ. 旅行業者は、約款に定めのない事項について、法令に反せず、かつ、旅行者に不利にならない範囲で書面により特約を結ぶことがある。
- ウ. 旅行業者が作成した旅行の計画に記載した運送・宿泊機関等について、満員等の事由により、運送・宿泊等のサービスの提供を受ける契約を締結できなかったときは、旅行業者は、既に収受していた相談料金を旅行者に払い戻さなければならない。
- エ. 旅行業者は、契約の履行に当たって、旅行業者が故意又は過失により旅行者に損害を与えたときは、その損害発生の翌日から起算して6月以内に当該旅行業者に対して通知があったときに限り、その損害を賠償する責に任じる。

2. 一般貸切旅客自動車運送事業標準運送約款に関する次の記述のうち、誤っているものを1つ選びなさい。

- ア. 旅客は、バス会社の運転者、車掌その他の係員が運送の安全確保と車内秩序の維持のために行う職務上の指示に従わなければならない。
- イ. バス会社は、乗車券の券面に記載した配車日時に所定の配車をした場合において、出発時刻から30分を経過しても旅客が乗車についての意思表示をしないときには、当該車両について当該運送契約に係る運送の全部が終了したものとみなす。ただし、天災その他やむを得ない事由による場合には、適用しない。
- ウ. 旅客が車中で泥酔し、他の旅客の迷惑となるおそれがあるため、バス会社がその後の運送の継続を拒絶したときは、バス会社は、当該旅客について当該運送契約に係る運送の全部が終了したものとみなす。
- エ. バス会社が収受する運賃及び料金は、乗車時において当該バス会社の本社所在地を管轄する都道府県知事に届け出て実施しているものによる。

3. 海上運送法第9条第3項の規定に基づく標準運送約款（フェリーを含む一般旅客定期航路事業に関する標準運送約款）に関する次の記述のうち、誤っているものを1つ選びなさい。

- ア. 旅客が自ら携帯して船室に持ち込む物であって、3辺の長さの和が2メートル以下で、かつ、重量が30キログラム以下の物品は、約款に定める「手回り品」に該当する。
- イ. 片道の乗船距離が100キロメートル以上200キロメートル未満の乗船券の通用期間は、指定便に係るものを除き、発売当日限りである。
- ウ. フェリー会社は、旅客の乗船後に乗船券の通用期間が経過した場合は、そのまま継続して乗船する間に限り、当該乗船券の通用期間は、その間延長されたものとみなす。
- エ. フェリー会社は、旅客が、船長又はフェリー会社の係員の指示に従い、乗船港の乗降施設（改札口がある場合にあっては、改札口。）に達した時から下船港の乗降施設を離れた時までの間に、その生命又は身体を害した場合は、これにより生じた損害について賠償する責任を負う。

4. 国内旅客運送約款（全日本空輸）に関する次の記述のうち、誤っているものを1つ選びなさい。

- ア. 適用運賃及び料金は、航空会社規則に別段の定めのある場合を除き、航空券の発行日において、旅客が航空機に搭乗する日に有効な旅客運賃及び料金とする。
- イ. 航空会社が共同して国内航空運送を引き受け、そのいずれかが行った運送につき、賠償責任を負う場合は、航空券を発行した航空会社が賠償の責任を負う。
- ウ. 受託手荷物の損害に関する通知は、旅客が受託手荷物を受け取った日の翌日から起算して7日以内に、文書によりしなければならない。
- エ. 同一の航空便で旅行する2人以上の旅客が、同一地点まで同時に航空会社に手荷物の運送を委託する場合には、航空会社は、申出により、重量について、各人の無料受託手荷物許容量を合算し、当該同行旅客全員を一体としてその許容量とすることができる。

5. 旅客鉄道会社（JR）の旅客営業規則に関する次の記述のうち、誤っているものを1つ選びなさい。

- ア. 旅客は、旅客運賃・料金について2以上の割引条件に該当する場合であっても、同一の乗車券類について、重複して旅客運賃・料金の割引を請求することができない。ただし、学生割引普通乗車券を購入する旅客は、往復割引の普通旅客運賃に対して、学生割引の適用を請求することができる。
- イ. 旅客鉄道会社は、旅客が、片道の営業キロが600キロメートルを超える区間を往復乗車する場合は、往復の割引普通乗車券を発売する。
- ウ. 列車が事故等で運行不能となったとき、旅行を途中で中止する場合は、旅客は、無賃で乗車券の券片に表示された発駅に戻ることを請求できる。この場合において、途中下車をしていなければ、すでに旅客鉄道会社が収受した旅客運賃の全額の払いもどしを請求できる。
- エ. 旅客鉄道会社は、訪日観光団体に対しては、団体旅客が31人以上50人までのときはうち1人、51人以上のときは50人までごとに1人を加えた人員を無賃扱人員として旅客運賃を収受しない。

6. モデル宿泊約款に関する次の記述のうち、誤っているものを1つ選びなさい。

- ア. ホテル（旅館）は、宿泊しようとする者が暴力団又は暴力団員が事業活動を支配する法人その他の団体であると認められるとき、宿泊契約の締結に応じないことがある。
- イ. 宿泊契約は、ホテル（旅館）が契約の申し込みを承諾し、かつ、ホテル（旅館）が定める申込金を受理したときに成立する。
- ウ. ホテル（旅館）は、宿泊客に契約した客室を提供できないときは、宿泊客の了解を得て、できる限り同一の条件による他の宿泊施設をあっ旋する。
- エ. 宿泊客がフロントに預けた物品について、滅失、毀損等の損害が生じたときは、それが、不可抗力である場合を除き、ホテル（旅館）は、その損害を賠償する。

3 国内旅行実務

1. 以下の各設問について、該当する答を、選択肢の中からそれぞれ1つ選びなさい。

(1) 岡山藩主池田光政によって庶民教育のために創立された学校・学問所で、国宝の講堂をはじめ、多くの建造物が国の重要文化財に指定されている特別史跡は、次のうちどれか。

ア. 旧弘道館 イ. 旧閑谷学校 ウ. 旧中込学校 エ. 致道館

(2) 日本と西洋の文化が重なる独特の景観「寺院と教会の見える風景」で知られ、松浦史料博物館、聖フランシスコ・ザビエルの名を冠したカトリック教会などがある長崎県に属する島は、次のうちどれか。

ア. 福江島 イ. 平戸島 ウ. 出島 エ. 高島

(3) 日本海に面して重なる田が海岸まで続く絶景で、世界農業遺産「能登の里山里海」に認定された奥能登を代表する観光スポットは、次のうちどれか。

ア. 白米千枚田 イ. 三段壁 ウ. 丸山千枚田 エ. 千羽海崖

(4) 柳沢吉保が設計指揮し造り上げた「回遊式築山泉水庭園」で、国の特別名勝に指定された東京都文京区に所在する庭園は、次のうちどれか。

ア. 清澄庭園 イ. 三溪園 ウ. 浜離宮恩賜庭園 エ. 六義園

(5) アートの島として知られ、建築家の安藤忠雄が設計した地中美術館などがある香川県に属する島は、次のうちどれか。

ア. 女木島 イ. 生口島 ウ. 直島 エ. 青海島

(6) 渥美半島の先端に位置し、詩人・小説家の島崎藤村の詩に、後年、曲を付した唱歌「椰子の実」の舞台となった恋路ヶ浜がある岬は、次のうちどれか。

ア. 野島崎 イ. 伊良湖岬 ウ. 御前崎 エ. 佐多岬

(7) 大分県北西部に位置し、岩石美・森林美・溪流美が調和する山国川の上・中流域の景勝地で、青ノ洞門や羅漢寺などの見どころで知られる峡谷・溪谷は、次のうちどれか。

ア. 菊池溪谷 イ. 立久恵峡 ウ. 高千穂峡 エ. 耶馬溪

(8) 北海道西部の日本海に突出し、その北西端には断崖と奇岩で知られる神威岬と、近くにはニセコや小樽などの観光地がある半島は、次のうちどれか。

- ア. 積丹半島 イ. 知床半島 ウ. 根室半島 エ. 野付半島

2. 次の文章を読み、以下の各設問について該当する答を、選択肢の中からそれぞれ1つ選びなさい。

全国各地で行われる祭りは、国や都道府県の無形民俗文化財に指定されているものも多く、地域の伝統文化であるとともに、重要な観光資源にもなっている。観光資源としての祭りには、(a)「鞍馬の火祭」や(b)「秩父夜祭」のように神社などの神事や祭礼として行われるものと、(c)「阿波おどり」や「博多どんたく」のように地域の催事やイベントとしての要素が強いものがあるが、いずれも観光客に人気が高い。

祭りの中には、数年に一度だけ開催されるものもあり、Aの祭礼である御柱祭は、数えて7年に一度の寅年と申年に行われることで知られ、開催年には特に多くの観光客が訪れている。

(1) 下線(a)の開催地と同じ都道府県内で開かれる祭りとして正しいものは、次のうちどれか。

- ア. 時代祭 イ. 三社祭 ウ. 相馬野馬追 エ. 先帝祭

(2) 下線(b)の開催地と同じ都道府県内に所在する観光地として正しいものは、次のうちどれか。

- ア. 大菩薩峠 イ. 岩宿遺跡 ウ. 寝覚の床 エ. 長瀬

(3) 下線(c)の発祥となる開催地とこの祭りに関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- ア. 開催地と同じ都道府県内の名物のひとつに「祖谷そば」がある。
イ. 祭りは、毎年8月に開催される。
ウ. 開催地と同じ都道府県内の観光スポットのひとつに「はりまや橋」がある。
エ. “連(れん)”と呼ばれるグループで、お囃子のリズムに乗って踊るのが特徴である。

(4) 空欄Aに入る神社として正しいものは、次のうちどれか。

- ア. 気多大社 イ. 諏訪大社 ウ. 多賀大社 エ. 松尾大社

3. 以下の各設問の行程について、前後に最も近い観光地を、選択肢の中からそれぞれ1つ選んで を埋め、モデルコースを完成させなさい。

(1) 高松駅 — 瀬戸大橋 — — 岡山後楽園 — 岡山駅

ア. 美ヶ原高原美術館 イ. 大原美術館 ウ. 国立西洋美術館 エ. 足立美術館

(2) 新函館北斗駅 — 五稜郭跡 — — 函館山ロープウェイ — 湯の川温泉 (泊)

ア. 金森赤レンガ倉庫群 イ. 北海道開拓の村
ウ. 白い恋人パーク エ. 昭和新山熊牧場

(3) 静岡駅 — 登呂遺跡 — 久能山東照宮 — — 熱海温泉 (泊)

ア. 竜神大吊橋 イ. 佐田の沈下橋 ウ. 伊良部大橋 エ. 三島スカイウォーク

(4) 鳥取駅 — — 鳥取砂丘 — 三徳山三佛寺 — 三朝温泉 (泊)

ア. 鞆の浦 イ. 雨晴海岸 ウ. 浦富海岸 エ. 笹川流れ

4. 以下の各設問の組合せについて、該当する答を、選択肢の中からそれぞれ1つ選びなさい。

(1) 次の温泉と観光地の組合せのうち、その所在地がすべて同じ都道府県にあるものはどれか。

ア. 城崎温泉 — 竹田城跡 — 淡路島
イ. 豊富温泉 — トラピスチヌ修道院 — 大間崎
ウ. 四万温泉 — 恵林寺 — 野反湖
エ. 別所温泉 — 上田城跡 — 清里高原

(2) 次の観光地と記念館の組合せのうち、その所在地が同じ都道府県でないものはどれか。

ア. 北上展勝地 — 安比高原 — 宮沢賢治記念館
イ. 最上峡 — 月山 — 太宰治記念館「斜陽館」
ウ. 馬籠宿 — 恵那峡 — 杉原千畝記念館
エ. 角島大橋 — 秋吉台 — 中原中也記念館

(3) 次の郷土料理・名物と街並みの組合せのうち、同じ都道府県でないものはどれか。

 <郷土料理・名物> <街並み>
ア. かるかん — 知覧
イ. しょつつる鍋 — 角館
ウ. 手こねずし — 近江八幡
エ. 朴葉みそ — 飛騨高山

(4) 次の県で開催される祭り・行事と開催月の組合せのうち、誤っているものはどれか。

〈県：祭り・行事〉		〈開催月〉
ア. 岡山県：西大寺会陽	——	2月
イ. 奈良県：東大寺お水取り	——	3月
ウ. 岩手県：チャグチャグ馬コ	——	6月
エ. 石川県：金沢百万石まつり	——	10月

5. 日本国内における世界遺産・国立公園・ラムサール条約に関する以下の各設問について、該当する答を、選択肢の中からそれぞれ1つ選びなさい。

(1) 2015年に世界遺産（文化遺産）に登録された「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」について、その構成資産として登録されていないものは、次のうちどれか。

ア. 高山社跡 イ. 旧グラバー住宅 ウ. 旧集成館 エ. 葦山反射炉

(2) 2000年に世界遺産（文化遺産）に登録され、桜の名所としても知られる沖縄本島の本部半島に位置する北山王の居城跡は、次のうちどれか。

ア. 中城城跡 イ. 勝連城跡 ウ. 座喜味城跡 エ. 今帰仁城跡

(3) 十和田八幡平国立公園の区域内で八甲田山麓に位置し、総ヒバ造りの大浴場「ヒバ千人風呂」が有名な温泉は、次のうちどれか。

ア. 飯坂温泉 イ. 酸ヶ湯温泉 ウ. 大鱈温泉 エ. 玉川温泉

(4) 2005年にラムサール条約の条約湿地に登録された「尾瀬」が位置する県境地について、その所在する県として正しいもののみをすべて選んでいるものは、次のうちどれか。

〈 県 〉 a. 群馬県 b. 福島県 c. 新潟県 d. 長野県

ア. a, b イ. b, c ウ. a, b, c エ. a, c, d

(5) 国立公園に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

ア. 「支笏洞爺国立公園」は、火山地形から“生きた火山の博物館”とも呼ばれ、羊蹄山、有珠山などの山々や定山溪、登別などの温泉観光地が点在する。

イ. 「南アルプス国立公園」は、山梨、長野、静岡の3県にまたがる山岳公園で、日本で第2位の高さを誇る北岳はこれに含まれる。

ウ. 「伊勢志摩国立公園」は、英虞湾、的矢湾、五ヶ所湾などの奥深い入り江の海岸風景が特徴で、賢島では2016年5月に伊勢志摩サミットが開催された。

エ. 「西表石垣国立公園」は、沖縄県に属する島々と周辺海域からなる公園で、西表島の他、竹富島、与論島などがこれに含まれる。

6. 貸切バスによる運送に関する以下の各設問について、それぞれ選択肢の中から答を1つ選びなさい。

(1) 次の行程（日帰り）で、学校教育法による中学校の生徒の団体が大型車の貸切バス（本問において、以下「大型バス」という。）を利用するとき、この運賃について資料に基づき各設問に該当する答を、選択肢の中からそれぞれ1つ選びなさい。

(注1) 「一般貸切旅客自動車運送事業の運賃・料金の変更命令について（平成26年3月26日付 関東運輸局長公示）」によるものとする。

(注2) この運行に係る料金は生じないものとする。

(注3) 消費税の計算は、行わないものとする。

〈行程〉（日帰り）

● 走行時間の合計は6時間10分

● 実車距離は214キロ

なお、「実車距離」とは、旅客の最初の乗車から最後の降車までの間に走行する距離をいい、回送距離は含まない。

● 回送距離の合計は67キロ

〈資料〉

● 時間制運賃の下限額は大型バス1時間当たり5,310円とし、この大型バスの時間制運賃は下限額をもとに計算される。

● キロ制運賃の下限額は大型バス1キロ当たり120円とし、この大型バスのキロ制運賃は下限額をもとに計算される。

① この行程における下限額をもとに計算した時間制運賃の額について、正しいものはどれか。

ア. 6時間10分 → 端数処理 → 6時間×5,310円 = $\boxed{31,860\text{円}}$

イ. 6時間10分 → 端数処理 → 7時間×5,310円 = $\boxed{37,170\text{円}}$

ウ. 6時間10分 + 2時間 = 8時間10分 → 端数処理 → 8時間×5,310円 = $\boxed{42,480\text{円}}$

エ. 6時間10分 + 2時間 = 8時間10分 → 端数処理 → 9時間×5,310円 = $\boxed{47,790\text{円}}$

② この行程における下限額をもとに計算したキロ制運賃の額について、正しいものはどれか。

ア. 214キロ → 端数処理 → 210キロ×120円 = $\boxed{25,200\text{円}}$

イ. 214キロ → 端数処理 → 220キロ×120円 = $\boxed{26,400\text{円}}$

ウ. 214キロ + 67キロ = 281キロ → 端数処理 → 280キロ×120円 = $\boxed{33,600\text{円}}$

エ. 214キロ + 67キロ = 281キロ → 端数処理 → 290キロ×120円 = $\boxed{34,800\text{円}}$

③ この団体が支払うこととなる大型バスの運賃に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

ア. 下限額をもとに計算した時間制運賃の額とキロ制運賃の額を合算した運賃

イ. 下限額をもとに計算した時間制運賃の額とキロ制運賃の額を合算し1割引した運賃

ウ. 下限額をもとに計算した時間制運賃の額とキロ制運賃の額を合算し2割引した運賃

エ. 下限額をもとに計算した時間制運賃の額とキロ制運賃の額を合算し3割引した運賃

(2) 貸切バスによる運送に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

(注1) 「一般貸切旅客自動車運送事業標準運送約款」「一般貸切旅客自動車運送事業の運賃・料金の変更命令について(平成26年3月26日付 関東運輸局長公示)」によるものとする。

(注2) 選択肢イ. は、消費税の計算を行わないものとする。

ア. 帰庫が22時の運行において、バス会社は、帰庫後の点呼点検時間に当たる1時間分の深夜早朝運行料金を収受することができる。

イ. 「配車日が8月1日、1台10万円で契約した貸切バス1台」の運送契約を、契約責任者の都合で7月25日に解除した場合、バス会社は契約責任者から3万円の違約料を申し受けることができる。

ウ. 法令により交替運転者の配置が義務付けられる場合、その他、交替運転者の配置について運送申込者と合意した場合には、バス会社は、交替運転者配置料金の上限額及び下限額の範囲内で計算した額の交替運転者配置料金を収受することができる。

エ. 宿泊を伴う2日間の運行において、契約責任者が観光ガイドとしてバスガイドのサービスを求めた場合、ガイド料は契約責任者の負担とすることができるが、バスガイドの宿泊費は契約責任者の負担とすることはできない。

7. 宿泊に関する次の記述のうち、誤っているものを1つ選びなさい。

(注1) モデル宿泊約款によるものとする。

(注2) 選択肢ア. ウ. は、サービス料及び消費税等諸税の計算は行わないものとする。

(注3) 選択肢イ. の宿泊客、エ. の団体客に対し、ホテル又は旅館は、申込金の支払いを求めているが、宿泊契約を解除したときの違約金支払義務について告知しているものとする。

ア. 基本宿泊料(室料)が20,000円、チェックアウトが午前10時と定められたホテルで、午後4時30分まで客室を延長利用したときの時間外追加料金は20,000円である。

イ. 基本宿泊料(室料)が20,000円、サービス料10%を含む宿泊料金が22,000円のホテルのツインルームにおいて、違約金の対象となるのは、基本宿泊料の20,000円である。

ウ. 大人料金が1人当たり20,000円の旅館において、大人に同伴された小学生が大人に準じる食事と寝具等の提供を受けたときの子供料金は、大人料金の50%の10,000円である。

エ. 宿泊日の8日前に18名で1泊する宿泊契約を旅館と締結した団体客が、宿泊当日に3名の契約を解除し、宿泊人数が15名となった場合、当該旅館は、解除となった3名のうち1名分の違約金を収受し、2名分の違約金は収受しない。

8. 航空による運送に関する以下の各設問について、それぞれ選択肢の中から答を1つ選びなさい。

- (1) 全日本空輸の片道運賃及び小児運賃を適用し、大人1人、満12歳の小学生1人、満5歳の幼稚園児1人、座席を使用しない満2歳の幼児1人、これら計4人の家族が航空機を利用するとき、必要となる片道運賃と小児運賃の組合せのうち、正しいものはどれか。

(注) 年齢は搭乗日現在とする。

- ア. 片道運賃1人と小児運賃2人分が必要である。
- イ. 片道運賃2人と小児運賃1人分が必要である。
- ウ. 片道運賃1人と小児運賃3人分が必要である。
- エ. 片道運賃2人と小児運賃2人分が必要である。

- (2) 全日本空輸の往復運賃（同一区間を往復）を適用し、往復とも座席の予約がなされている航空券を購入した旅客が、旅客の都合で往路予約便の出発時刻前に全ての座席の予約を解約し当該航空券の払い戻しをした。この場合の払い戻しにおける手数料として正しいものはどれか。

- ア. 払戻手数料として2区間分の860円が必要であるが、取消手数料は不要である。
- イ. 払戻手数料として2区間分の860円と所定の取消手数料が必要である。
- ウ. 払戻手数料として1区間分の430円が必要であるが、取消手数料は不要である。
- エ. 払戻手数料として1区間分の430円と所定の取消手数料が必要である。

9. 旅客鉄道会社（JR）に関する以下の各設問について、それぞれ選択肢の中から答を1つ選びなさい。




- (1) 旅客鉄道会社（JR）に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

- ア. 5月31日に始発駅を出発する新幹線の指定席グリーン券の発売日時は、4月30日の午前10時である。
- イ. 大人に随伴される3歳の幼児が、快速列車の指定席を幼児1人で利用する場合、この幼児については、小児の運賃と小児の座席指定料金が必要である。
- ウ. 新幹線の普通車指定席を利用する団体旅客が15人で構成される普通団体の場合、1人を無賃扱人員として、運賃に加えて指定席特急料金も収受しない。
- エ. 「京都市内→福岡市内」と券面に表示された乗車券を使用して、山科駅（京都市内の駅）から旅行を開始し、京都駅（京都市内の中心駅）で途中下車する場合において、山科駅から京都駅までの間の運賃を別に支払わなくても、引き続き当該乗車券を使用して乗車することができる。



(2) 乗継割引に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

(注) いずれも最初の列車の乗車日当日に乗り継ぐものとし、途中下車はしないものとする。



ア. 「つがる」及び「スーパー北斗」とともに乗継割引が適用される。

大館駅  新青森駅  新函館北斗駅  洞爺駅
特急「つがる」 新幹線「はやぶさ」 特急「スーパー北斗」

イ. 「ときわ」に乗継割引が適用される。

黒部宇奈月温泉駅  上野駅  勝田駅
新幹線「はくたか」 特急「ときわ」

ウ. 「指宿のたまて箱」に乗継割引が適用される。

博多駅  鹿児島中央駅  指宿駅
新幹線「みずほ」 特急「指宿のたまて箱」

エ. 「うずしお」に乗継割引が適用される。

名古屋駅  岡山駅  高松駅  徳島駅
新幹線「ひかり」 (快速列車) 特急「うずしお」


(3) 次のJR券を4月10日に払いもどしたときの払いもどし額について、正しいものはどれか。

乗車券・B特急券・グリーン券 ****

乗車券 2日間有効

宝 塚 ➡ **城崎温泉**

4月12日 (10:34 発) (12:50 着) C26

このとり 5号 1号車 3番C席 

¥7,070 内訳：乗2,590・特1,730・グ2,750

28. - 3. 16

見 本

ア. $7,070円 - 220円 - 330円 =$ 6,520円

イ. $7,070円 - 220円 - 330円 \times 2 =$ 6,190円

ウ. $7,070円 - 330円 =$ 6,740円

エ. $7,070円 - 330円 \times 2 =$ 6,410円

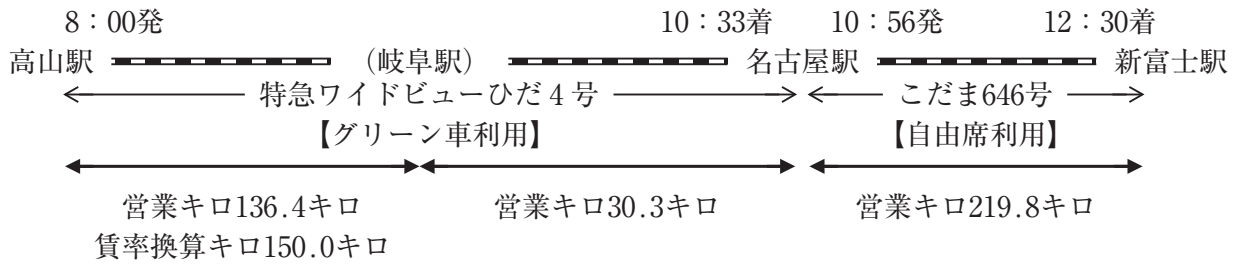
(4) 大人1人と小児1人が、次の行程を乗車する場合について、資料に基づき各設問に該当する答を、選択肢の中からそれぞれ1つ選びなさい。

(注1) 高山駅～岐阜駅間は地方交通線である。

(注2) 名古屋駅では途中下車せず、同日の乗り継ぎとする。

〈行程〉

5月3日（繁忙期）



〈資料〉

本州3社内の幹線の普通運賃表（抜粋）

営業キロ（運賃計算キロ）	片道運賃（基準額）
161～180キロ	3,020円
181～200キロ	3,350円
201～220キロ	3,670円
381～400キロ	6,480円
401～420キロ	6,800円

この行程における区間及び列車の各種料金

高山～名古屋	普通車指定席特急料金（通常期）	2,680円
高山～名古屋	グリーン料金	2,750円
名古屋～新富士	東海道新幹線〔ひかり〕〔こだま〕 普通車指定席特急料金（通常期）	3,860円

① この行程における大人1人の運賃の額について、正しいものはどれか。

ア. $136.4\text{キロ} + 30.3\text{キロ} + 219.8\text{キロ} = 386.5\text{キロ} \rightarrow \text{は数整理} \rightarrow 387\text{キロ} \dots\dots \boxed{6,480\text{円}}$

イ. $136.4\text{キロ} + 30.3\text{キロ} = 166.7\text{キロ} \rightarrow \text{は数整理} \rightarrow 167\text{キロ} \dots\dots 3,020\text{円}$
 $219.8\text{キロ} \rightarrow \text{は数整理} \rightarrow 220\text{キロ} \dots\dots 3,670\text{円}$
 $3,020\text{円} + 3,670\text{円} = \boxed{6,690\text{円}}$

ウ. $150.0\text{キロ} + 30.3\text{キロ} + 219.8\text{キロ} = 400.1\text{キロ} \rightarrow \text{は数整理} \rightarrow 401\text{キロ} \dots\dots \boxed{6,800\text{円}}$

エ. $150.0\text{キロ} + 30.3\text{キロ} = 180.3\text{キロ} \rightarrow \text{は数整理} \rightarrow 181\text{キロ} \dots\dots 3,350\text{円}$
 $219.8\text{キロ} \rightarrow \text{は数整理} \rightarrow 220\text{キロ} \dots\dots 3,670\text{円}$
 $3,350\text{円} + 3,670\text{円} = \boxed{7,020\text{円}}$

② この行程のそれぞれの列車における小児1人の料金の額について、正しいものはどれか。

ア. 高山～名古屋間の特急料金 $\dots\dots\dots (2,680\text{円} - 520\text{円}) \div 2 = 1,080\text{円}$
 $1,080\text{円} \div 2 = \boxed{540\text{円}}$
高山～名古屋間のグリーン料金 $\dots\dots\dots 2,750\text{円} \div 2 = 1,375\text{円} \rightarrow \text{は数整理} \rightarrow \boxed{1,370\text{円}}$
名古屋～新富士間の特急料金 $\dots\dots\dots (3,860\text{円} - 520\text{円}) \div 2 = \boxed{1,670\text{円}}$

イ. 高山～名古屋間の特急料金 $\dots\dots\dots (2,680\text{円} + 200\text{円} - 520\text{円}) \div 2 = 1,180\text{円}$
 $1,180\text{円} \div 2 = \boxed{590\text{円}}$
高山～名古屋間のグリーン料金 $\dots\dots\dots 2,750\text{円} \div 2 = 1,375\text{円} \rightarrow \text{は数整理} \rightarrow \boxed{1,370\text{円}}$
名古屋～新富士間の特急料金 $\dots\dots\dots (3,860\text{円} + 200\text{円} - 520\text{円}) \div 2 = \boxed{1,770\text{円}}$

ウ. 高山～名古屋間の特急料金 $\dots\dots\dots (2,680\text{円} - 520\text{円}) \div 2 = 1,080\text{円}$
 $1,080\text{円} \div 2 = \boxed{540\text{円}}$
高山～名古屋間のグリーン料金 $\dots\dots\dots \boxed{2,750\text{円}}$
名古屋～新富士間の特急料金 $\dots\dots\dots (3,860\text{円} - 520\text{円}) \div 2 = \boxed{1,670\text{円}}$

エ. 高山～名古屋間の特急料金 $\dots\dots\dots (2,680\text{円} + 200\text{円} - 520\text{円}) \div 2 = 1,180\text{円}$
 $1,180\text{円} \div 2 = \boxed{590\text{円}}$
高山～名古屋間のグリーン料金 $\dots\dots\dots \boxed{2,750\text{円}}$
名古屋～新富士間の特急料金 $\dots\dots\dots (3,860\text{円} + 200\text{円} - 520\text{円}) \div 2 = \boxed{1,770\text{円}}$

③ この行程におけるJR券に関する以下の記述のうち、正しいものはどれか。

- ア. 列車の事故により「特急ワイドビューひだ4号」が遅延し、名古屋駅の到着時刻が同日の12時10分となった。この場合、「特急ワイドビューひだ4号」の特急料金の全額が返金される。
- イ. 旅客の都合により「特急ワイドビューひだ4号」に乗り遅れた場合、「特急ワイドビューひだ4号」の特急券とグリーン券は無効になり、払いもどしできない。
- ウ. この乗車券の有効期間は4日間である。
- エ. 名古屋～新富士間の特急券の有効期間は、5月3日と5月4日の2日間である。

〈以上〉